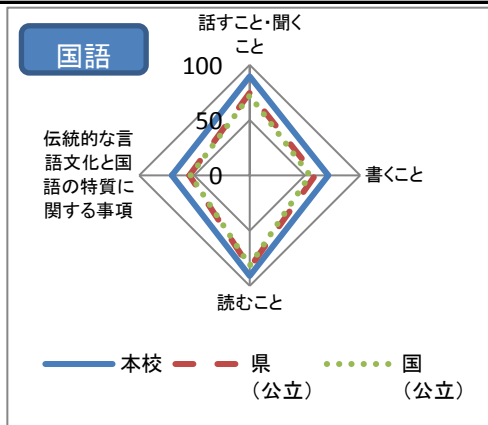


平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査 指導方法等の改善計画について【国語】

海田南小 学校

本年度正答率(本校79%, 県66%, 国63.8%)

本年度の結果について



・根拠を明確にして話したり書いたりする活動や、相手や目的に応じて伝えたいことが伝わる文章を適切に書く活動を、国語科の授業や新聞タイムを活用して継続的に行った結果、文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を書く問題【1－四(2)】では、正答率が83.3%で、県平均(52.0%)及び全国平均(47.8%)を30ポイント以上上回った。一方で、目的に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題【1－三】では、正答率54.2%で、県平均(34.3%)及び全国平均(28.8%)と大きく上回ってはいるが、約半数の児童には課題がある。

・漢字を文の中で正しく使う問題【1－四(1)ウ】では、正答率24.0%で、県平均(28.4%)及び全国平均(35.6%)を下回っている。

重点課題	重点課題に対応した改善指導内容及び方法(授業)	全校での目標(キャッチフレーズ)
【課題1】 目的に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと。	自分の意見を必ず理由付けをしながら言ったり、振り返りで書いた文章を読み返し、推敲したりする活動を授業の中で継続的に行う。 第3学年以上では、ぐんぐんタイムや新聞タイムにおいて、一人ずつ辞書を引く活動を行う。第1・2学年では、漢字の学習と文づくりを関連付けて行う。	キーワードを見つけて
【課題2】 文の意味を捉え、正しい漢字を使うこと。		

令和2年度 全国学力・ 学習状況調査 数値目標
県平均+5P

【課題1】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率50%	通過率55%		通過率60%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							
【課題2】	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月・4月
学年・方法	5年 町学力調査過去問題	全学年 町学力調査過去問題		5年 町学力調査過去問題	全学年 CRT学力調査	4年・基礎・基本定着状況調査過去問題 5年・全国学力・学習状況調査過去問題	
目標値	通過率55%	通過率60%		通過率65%	町平均+1P	通過率65%	
実施後数値							

平成31年度(令和元年度) 指導方法等の改善計画について【質問紙】

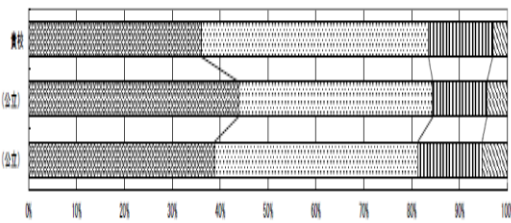
海田南 小学校

(全国学力・学習状況調査 質問紙)

(1)生活・学習

質問(5) 自分には、よいところがあると思いますか

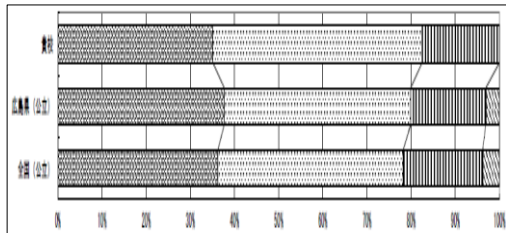
○1.当てはまる ○2.どちらかといえば、当てはまる ○3.どちらかといえば、当てはまらない ○4.当てはまらない ■その他 □無回答



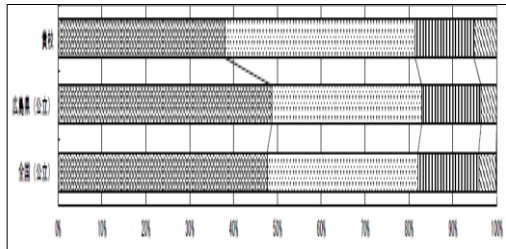
児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
・自己肯定感が県平均よりも0.9%低く、自分のよさを周りの人からも認められていないと感じている児童がいる。(自校肯定的評価83.5%, 県84.4%, 全国81.2%)	・体験活動を多く仕組み、成功した場合には、しっかり褒めるなどの肯定的評価を行うとともに、失敗した場合には、要因を分析し、次へのステップとする。 ・朝の会や帰りの会、学級活動などで、友達のいいところ見つけをしたり、ありがとうメッセージのプレゼントをしたりして、お互いの良さを認め合う場を設定する。	全学年	85%	「心の元気」アンケート 児童肯定的評価割合	12月		

(2)教科

質問(42) 国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていますか



質問(53) 算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか



児童生徒の回答についての課題(現状値)	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語 ・自校の肯定的評価は82.5%と県平均を上回ってはいるが、「当てはまる」と答えた児童は35.1%で、県平均(37.7%)・全国平均(36.2%)と比較すると、若干下回っている。	・国語科の授業や新聞タイムや日記等で、相手や目的に応じて、伝えたいことが伝わる文章を適切に書く活動に取り組む。	中・高学年	月2回以上の取組 90%	新聞タイムや日記・作文を書く活動に取り組んだ割合	毎月末		
算数 ・自校の肯定的評価は81.4%と県平均を下回っている。特に「当てはまる」と答えた児童は38.1%で、県平均(48.7%)・全国平均(47.7%)と比較すると、10ポイント程度下回っている。	・算数科の授業の自力解決の際に、「早く」「簡単」「正確」を意識しながら解いたり、集団解決の練り上げの際に、複数の解き方の中からよりよい解き方をみんなで考えたりする活動を仕組む。	全学年	児童意識調査肯定的評価 85%以上	児童意識調査肯定的評価の割合	12月		